

第2回別海町自治推進委員会 概要

開催日時：平成27年9月16日（水）午後1時30分から午後3時25分まで

開催場所：別海町役場 3階 301会議室

出席人数：9名（欠席3名）

<会議次第>

- 1 開 会
- 2 インタビューの仕方について
（講師：釧路新聞中標津支社長 真貝 恒平氏）
- 3 前回のふりかえり
- 4 平成26年度別海町自治基本条例運用状況報告書について
- 5 視察研修先について
- 6 閉 会

1 開 会 （司会 総合政策課長）

2 インタビューの仕方について （講師 釧路新聞中標津支社長 真貝 恒平氏）

・第3回自治推進委員会で予定している視察研修において、他市町における自治推進の事例を学習するにあたり、具体的で明確な回答の引き出し方の手法などインタビューの仕方を学ぶ機会として、釧路新聞中標津支社長 真貝氏を講師にお招きし、講演を行なってもらう。

3 前回のふりかえり

・事務局より、第1回自治推進委員会の内容についてのふりかえり。

4 平成26年度別海町自治基本条例運用状況報告書について

・特に「広報閲覧形態の改善」に関し、今年度7月から町内コンビニ等に広報別海を設置していること。今年度中に役場本庁舎や支所、公民館にパンフレット台を設置し、別海町に係わる情報などを閲覧出来るよう整備をする予定であること。今年度4月より、帯広市に本社のある東洋印刷株式会社「北海道の広報まるごと検索くん」というサイトにおいて、イーパブ版という電子書籍形式で閲覧できるようになっていることを説明。

委員

ホームページからの意見について、名前とアドレスの入力が必須となっているが、名前の欄に何かしらの文字が入っていれば送信できる状況になっている。匿名であればどんな意見でも書けてしまうし、偽名を使って他人になりすますこともできると思うのだが、そういったことを想定して意見の精査などはしているのだろうか。

事務局

例えば、匿名ということで行政に不都合なことが書かれており、そこを恣意的に精査し、結果として載せないというようなことにもなるのかといった場合ですが、全世界へ発信されるインターネットの怖さも背景にはありますが、意見を出された方にそこまでの認識があるかを行政のほ

うで斟酌し、“これはそういうことは配慮していないだろうから、公開するべきではない”というような精査をすることはできないと思います。

最初は責任を持った意見がほしいということが前提で、名前も入れて報告するような形でしたが、色々な考えのもと、広く意見を聞きたい、あるいは伝えたいという方の制限を少しでも配慮した形として、現在のような状況となっています。

委員

その意見を公開するかしないかというのを、本人に決める権利があるということにも違和感がある。

事務局

公開しないでほしいというもの、商業用・営業用になっていない限りは、基本的に公開ということになっています。

例えば300件意見が寄せられ、そのうち公開は50件でしたとなれば、「なぜ？」となりますよね。町に対して意見を寄せてください、とした中で意見をもらっていますが、ここに“公開するにふさわしくないと行政が判断したものについては公開しておりません”という一文が入ったとき、もしかしたら行政は自分たちにとって不都合であったり、耳障りであったりするものを意図的に載せなかったのでは？という、信頼性・信憑性の問題に繋がります。当然、誹謗中傷というものに特化した意見は受け付けませんし、公開しませんということにはなっていますが、非難や批判に特化した意見などの取り扱いについては難しい部分もあると思います。

このご意見箱は、町内の方からの意見もありますが、例えば観光で別海に来た方といったような、町外の方からのご意見も非常に多いです。なので、こうしたら別海町はもっと良くなるんじゃないですか、といったニュアンスの意見は、町外の方も名前を出すことに抵抗がなかったりするかもしれません。

5 視察研修先について

・第3回自治推進委員会では、今後の本委員会の活動、また当町の「協働のまちづくり」の参考とするため、視察研修を予定している。

候補として、下記の2団体を視野に入れ、事務局より簡単な説明。

「くしろ・わっと」・・・団体設立、事業運営、資金調達など市民活動に係わる相談業務に携わっており、これから活動しようとする方々、あるいは活動している方々の抱える問題点について多くの情報が蓄積され、当町が進める「協働のまちづくり」の参考になると考えている。特に力を入れているものの中に「若い世代に、市民活動に興味をもってもらえるような取り組み」とあり、このことは第1期自治推進委員会のなかでも、“まちづくりの場面において、若い人の参加が少ないのではないか”と話が出ており、当町の状況と共通する部分があるとも考えている。

「霧多布ナショナルトラスト」・・・位置的に決して恵まれた環境といえない中で、2千人を超える個人会員や百を超える団体会員を擁する団体となり、また会費収入や事業収入など経営面でも成功しており、さらに活網威容が評価され、数多くの賞を受けるなど社会的評価も高い団体である。

町で行っている「まちづくりフォーラム」等でも、町内団体においては活動資金の獲得が非

常に厳しいことがあげられており、その団体に取り組んだ工夫等の話を伺い、それが当町の「協働のまちづくり」に生かすことができれば、非常に有益と考える。また、現在力を入れているものとして“行政と市民の協働による、湿原の価値を高めていくまちづくり”も興味深いと考えている。

・委員より、「くしろ・わっと」が良いのではないかとの意見があり、研修先として交渉することとなった。平日開催とし、委員の過半数の参加が見込めるよう日程調整を行なうこととした。

6 閉 会